

vol.37

セント・ルukes

特集

血管炎外来——リウマチ膠原病センター

P9 新センターの紹介
P6 病院からのお知らせ

P10 聖路加レシピ
P11 身体のキレ復活エクササイズ

P8 聖路加国際病院の災害対策訓練について



病院名は、キリスト教徒で
医者の守護聖人とされる
聖ルカにちなんで
名づけられました。

広報誌St.Luke'sはウェブサイトからもご覧いただけます→

<http://hospital.luke.ac.jp/>



血管炎外来——リウマチ膠原病センター

患者さんの人生を守ることを目標に、「血管炎外来」を開設

昨年九月、聖路加のリウマチ膠原病センター内に「血管炎外来」を開設しました。当センターで治療の目標としているのは、「普通の生活、普通の人生を送っていただくこと」。血管炎外来でも、病気を抱えながらも普通に生活を送れるよう、専門のトレーニングを受けた医師が、一人ひとりの生活と人生を大切にした治療を行っています。

リウマチ膠原病センターとは

リウマチ膠原病センターは、名前のことおり、「膠原病」や「関節リウマチ」の診療を行っている診療科です。関節リウマチも膠原病の一つとされる場合もあるように、膠原病は一つの病気ではなく、免疫機能の異常から全身に慢性的な炎症を引き起こす病気の総称です。

聖路加のリウマチ膠原病センターの特徴の一つは、幅広い分野の専門医が集まっていること。膠原病は、①全身性エリテマトーデスなど、「抗核抗体」が関連しているもの、②脊椎関節炎やペリセラット病などの自然免疫が関係するもの、③血管炎——と大きく三種類に分けられます。それを専門とする医師が在籍しています。

たとえば岡田正人センター長の専門は抗核抗



体関連の膠原病、岸本暢将医師の専門は自然免疫が関係するもの、田巻弘道医師の専門は血管炎です。それぞれが膠原病のなかでも専門性をもちながら、関節リウマチのような基本的な病気もしっかりと診療しています。

そのほか、小児リウマチの専門医、漢方の専門医でもある膠原病専門医も。あらゆる年代の患者さんに、西洋医学だけではなく東洋医学も取り入れながら診療を行っています。

日米欧の「良いところ」を取り入れた診療を

もうひとつ特徴は、国際性です。岡田センター長はイエール大学、岸本医師はニューヨーク大学、田巻医師はクリーブランド・クリニックで臨床研修を行い、それぞれがアメリカのリウマチ膠原病内科専門医の資格を取得しています。

「アメリカのリウマチ膠原病内科専門医をしている医師は、日本には十人もいません。一人以上が常勤で働いているのは当院のみです。また、



「普通の人生を送っていたら」

アメリカの専門医資格は十年ごとに試験を受け、更新しなければいけません。試験は全体的な知識をブラッシュアップする良い機会になるので、皆で一緒に勉強しています」(岡田センター長)

また、「全医師で知識をシェアすること」も大切にしています。たとえば、「国際学会に参加したら、得た知識をメーリングリストで全医局員とシェアしています」と、岸本医師。

さらに日常的にも、毎朝の回診前の検討会を

英語で行うことで、英語をみんなが日常的に使えるようにして、国際学会でも最大限に情報が得られるよう努めています。こうした努力を積み重ね、日本、アメリカ、ヨーロッパのそれぞれ

聖路加のリウマチ膠原病センターで治療の目標としているのは、「患者さんに普通の人生を送っていただくこと」。

「私が三十年前に膠原病科を志した頃には、『膠原病＝人生をあきらめなければいけない』という雰囲気がありました。でも今は、少なくとも当センターでは『普通の人生を送っていただくこと』を目標に、生活に支障のないよう、治療を行っています」(岡田センター長)

たとえば、膠原病のなかでも患者数の多い「全身性エリテマトーデス」は、若い女性に発症の多い病気です。以前は、治療には長期の入院が必要で、留年すること、職場での地位をあきらめざるを得ないことが多い病気でした。しかし現在は、外来治療のみの方も多く、入院が必要な重い症状の方でも二週間程度の入院で治療ができるようになっています。

その結果、学校に普通に通い、受験も就職も普通に行えるようになりました。「当センターの患者さんの中には、仕事で海外を飛び回っている方もいますし、みんなと同じようにキャリアを積むことができるようになっています」と、岡

の良いところを取り入れ、一人ひとりの患者さんに合わせた医療を行っていることも、当センターの特徴のひとつです。

田センター長。また、以前は妊娠も難しいとされていましたが、今では、妊娠を希望される場合、病勢を妊娠中継続可能な薬剤でしっかりとコントロールすることで可能になっています。実際、毎年、何人の患者さんが妊娠・出産されています。

他科との連携で 早期診断、早期治療

治療と生活との両立が可能になってきた背景には、膠原病治療の基本となるステロイドの使い方がうまくなってきたこと、免疫抑制剤や生物学的製剤（生物が合成する物質を応用して作られた薬）といった新しい治療薬が登場し、選択肢が増えたことがある、と岡田センター長は説明します。

「ステロイド」と聞くと、副作用が気になるかもしれません。しかし最近では、短期間に減量することで、副作用が気になるような十ミリグラム以上の量を使うのは長くても三か月ほどに。また、欧米で使用していた薬が日本でも使えるようになってきているほか、聖路加のリウマチ膠原病センターでは国際臨床治験にも多く参加しており、〈海外では承認されているものの日本ではまだ承認されていない薬〉も含め、治療の選択肢が増えています。

ただし、大切なのは「早期診断」です。どんな病気においても「早期発見が大事」と言われます



岸本暢将 医長

『自分も病気になったら聖路加にかかりたい』と思うほど、理想的な環境だと思います。

「血管炎外来」を開設

が、リウマチ・膠原病も、早期診断と早期治療が生活の質（QOL）につながります。

たとえば、膠原病のなかでも最近注目されている「乾癬性関節炎」。乾癬という皮膚の病気に関節の腫れや痛みなどを伴う病気です。この乾癬性関節炎も、生物学的製剤を含め、治療薬が進歩し、多くの患者さんのQOLが改善されました。が、やはり早期診断が大切。

乾癬性関節炎の場合、七～八割の患者さんで皮膚の乾癬（表皮が過剰に増殖し、皮膚が盛り上がり、銀白色のかさぶたがポロポロ剥がれ落ちたりする）が先にあり、関節炎を発症します。そのため、皮膚科に通っている患者さんが多く、皮膚科との連携が欠かせません。

「聖路加では、たとえば皮膚科に通われている乾癬の患者さんが『痛い』とおっしゃつたら、当センターに直接連絡をもらい、必要であればその日のうちに、そうでなくとも早めに診察をさせていた

だくシステムになっています。また、皮膚科と同でカンファレンスを開くなど、日頃から密に連

絡を取り、双方向のコラボレーションをすることで、患者さんの早期診断、早期治療によるQOLの改善につながっています」（岸本医師）

ベストホスピタルで積んだ 知識と経験を聖路加で

血管炎は三十年前には『非常に恐ろしい病気』と言われていましたが、いまは、しっかりと治療を行えます』(田巻医師)

血管炎は比較的まれな病気のため、日本では血管炎に特化した臨床研修は行われていません。一方、アメリカでは、こうしたまれな病気をいくつかのセンターに集中させて治療を行う体制になつてきているため、血管炎に特化したトレーニングを受けることができます。研修中、新規の血管炎の患者さんを週に二、三人以上診させていた

昨年九月に開設した「血管炎外来」では、田巻医師がアメリカで学んできたことをいかし、「今までどおりの生活ができる」と目標に治療を行っています。

「血管炎の治療も飛躍的に進歩しています。ステ

田巻医師が血管炎のトレーニングを受けたのは、クリーブランド・クリニック内の血管炎センター。ここには、全米各地から血管炎の患者さんが集まり、その数は年間千人を超える。これは、日本全体の血管炎の患者さんの三分の一ほど。

「血管炎は比較的まれな病気のため、日本では血管炎に特化した臨床研修は行われていません。一方、アメリカでは、こうしたまれな病気をいくつかのセンターに集中させて治療を行う体制になつてきているため、血管炎に特化したトレーニングを受けることができます。研修中、新規の血管炎の患者さんを週に二、三人以上診させていた

だきましたが、こうした環境は、日本にはありません」(田巻医師)



田巻 弘道 医幹

しっかり治療すれば生活を保てて、うまく付き合っていく病気です。

ロイドのほか、免疫抑制剤を併用したり、血管炎に効果のある生物学的製剤も出てきました。血管炎は三十年前には『非常に恐ろしい病気』と言われていましたが、いまは、しっかりと治療を行えます』(田巻医師)

たとえば、仕事をもつている人なら、なるべく入院期間を短くし、仕事に支障がないように配慮します。高齢者であれば、薬の副作用がより出やすいため、ステロイド以外の薬を組み合わせ、できるだけ早くステロイドを減らすなど、一人ひとりに合った治療を提供しています。

長く付き合う病気 でも、特別ではない

こうした一人ひとりに合った治療が実現できるのは「リウマチケア看護師やリウマチ財団薬剤師をはじめ、優秀な多職種が揃っていることも大きい」と、岡田センター長、岸本医師、田巻医師の三名とも共通して言います。

聖路加のリウマチ膠原病センターでは十人以上の医師が常勤で働き、診療に当たっています。初診の方には三十分の枠を取り、かつ、一ヶ月間以内には予約が取れるようにしていま

看護師とは月に一回、合同カンファレンスを行っています。先月のカンファレンスでは、岸本医師と次のようなやり取りがありました。

「ある生物学的製剤を使っている患者さんの治療で本来の治療スケジュールよりも長く休薬をしていることについて、看護師さんから理由を聞かされました。エビデンスとともに説明をした

ところ、納得し、患者さんにも『良くなつてよかったですですね』と声をかけてくれ、患者さんがとても喜んでくださいました」

岡田センター長も、次のように補足します。

「患者さんが安心して治療を受けられるようになりますには、看護師が、私たち医師の治療方針を理解した上で説明してくれることが大切です。聖路加の看護師はわからないことがあれば積極的に医師に聞き、患者さんの話もしっかりと聞いて私たちに伝えてくれるので、非常に心強いでですね」

リウマチ・膠原病は長く付き合っていくことの多い病気です。しかし、決して特別な病気ではありません。

「高血圧の人のが血圧を下げる薬を飲むように、リウマチ・膠原病の人は免疫の活動性を下げる薬

を飲む必要があるというだけ。副作用を出さず普通の生活を送ることが治療のゴールなので、『膠原病だから大変』と、患者さんやご家族に思われないよう、治療をしたいと思っています」(岡田センター長)

聖路加のリウマチ膠原病センターでは十人以上の医師が常勤で働き、診療に当たっています。初診の方には三十分の枠を取り、かつ、一ヶ月間以内には予約が取れるようにしていま

す。関節超音波検査もその日のうちに可能ですし、紹介状のない患者さんも受け入れていますので、気になることがあれば、まずはご相談ください。

スポーツ総合医療センター

2017年10月10日開設



当センターでは、日本を代表するトップアスリートの健康維持管理を医学的側面からサポートしてきた医師やコメディカルスタッフが多く在籍し、これまでに培ってきたスポーツ医学の経験を診療

に役立てています。競技種目や選手の特性に合わせた最適な治療法を選択し、必要に応じて院外の関連施設、専門家と連携して診療にあたります。早期復帰、再発予防、そして最高のパフォーマンスを発揮できるよう医学的なサポートを行ってまいります。

スポーツ総合医療センター長 北村 信人

スポーツに関連した外傷や障害に対して以下の疾患を中心に、各専門診療科の特徴と得意分野を活かし専門的に評価し治療いたします。



新センターの紹介

ロボット手術センター 2017年9月1日開設



ロボット支援手術は、手術用ロボットやそれを操作する術者、患者さんの傍で共に手術を行う助手や看護師、麻酔科医を始め、臨床工学士や物品管理課など多くの職種の共同作業で成り立っています。また、がんを患う患者さんの中にはがん以外にも内科的な病気など、様々な合併症を抱えている方も多く、ケアには総合的なアプローチを必要とします。

当院では2011年9月のロボット支援手術開始から約1000

件のロボット手術を行ってきました。これまでの経験を踏まえて、更に新しい治療を幅広く展開していくため、ロボット手術センターを設立いたしました。関係者が一同に会することで、従来以上に情報が共有され、連携を深め協力しやすくなり、ロボット手術の幅を広げ、質を高めていくことができると考えています。

ロボット手術センター長 服部 一紀

ロボット支援手術とは



腹腔鏡手術をさらに発展させた手術方式で、高解像度3Dカメラ画像を見ながら、微細な動きを実現できるロボットアームを操り、より安全で体への負担が少ない手術を行えます。

主な対象疾患

女性の病気

- 子宮頸がん
- 子宮筋腫・子宮腺筋症
- 子宮体がん
- 子宮を残す場合の子宮筋腫

呼吸器の病気

- 肺がん
- 縱隔腫瘍

泌尿器の病気

- 前立腺がん
- 腎がん
- 膀胱がん

消化器の病気

- 胃がん・胃GIST
- 肝腫瘍(肝細胞がん・転移性肝がんなど)
- 膵腫瘍(膵がん・膵神経内分泌腫瘍・膵囊胞性腫瘍など)

- 胆石/総胆管結石症
- 胆嚢・胆管腫瘍/先天性胆道拡張症

聖路加国際病院の災害対策訓練について

聖路加国際病院は、東京都災害拠点病院および東京DMAT病院に指定されています。首都直下型地震などの大規模災害時には被災者の受け入れを行い、負傷者が発生している被災現場へ医療救護チームを派遣する役割を担っています。また、災害時に院内の患者さんなどの安全を確保することも、病院にとって重要な役割と考えています。万が一の時に、職員が一丸となって動けるよう、当院では様々な訓練を行っています。ここでは、直近1年間に行った訓練をご紹介します。

中央区総合防災訓練

中央区が主催する総合防災訓練が、2017年9月3日（日）に区立豊海小学校にて行われました。当院の東京DMAT（医師・看護師・事務からなる医療救護チーム）がDMATカー（東京都より配備）で出動し、倒壊した家屋から住民を救助し、その場で治療を行うデモンストレーションを披露しました。



病院災害対策訓練

年に1度、病院の全職員が参加する訓練を、午後の外来診療を休診にして開催しています。2017年10月19日（木）に「首都直下型地震（震度6）」を想定して訓練を行いました。当院は東京都災害拠点病院に指定されているため、災害時は主に重症傷病者の受け入れをする役割を担っています。訓練を行うことで、各スタッフが災害時の自分の役割を理解し、患者さんの受け入れや入院患者さ

んの安全確保のシミュレーションを行うと同時に、災害物品の使い方や避難経路などを再学習する機会となっています。

※2018年度は10月17日（水）午後に訓練を予定しています。



救護センター本部の様子



重傷者受入エリアの様子

消防総合訓練（年2回）

2017年10月19日（木）に本館2階皮膚科外来、2018年3月16日（金）に本館地下2階栄養科にて火災訓練を実施しました。火災は絶対に起こってはならないことですが、万が一の際の消火・通報・避難の一連の流れを訓練しています。



IMCU病棟での消防総合訓練の様子（2016年10月12日実施）

乳幼児連れ去り訓練

乳幼児がいる部署にて定期的に乳幼児連れ去り訓練を行っています。直近では、2018年3月5日（月）に聖路加助産院 マタニティケアホームにて訓練を行いました。一番大切なことは、赤ちゃん（お子さん）を無傷の状態で保護することです。保護、犯人の確保、警察への通報の流れを確認しています。

以上のように、当院の特性や診療環境を考慮し、起こりうる各種の災害について訓練を実施しています。外来診療の休診や館内放送などで患者の皆様へご迷惑をおかけすることもありますが、ご理解ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

災害対策委員会 事務局

病院からのお知らせ

さわやか学習センターが旧館2階に移転しました。

さわやか学習センターでは医学に関する書籍や雑誌を自由に閲覧したり、パソコンを使って検索や印刷(有料)ができます。

開館時間

月～金 9:00-16:30(土・日・祝日は休館)



自動販売機が新しくなりました。

病院本館1階西口側の下りエスカレータ前にある自動販売機がデジタルサイネージ付きにリニューアルしました。デジタルサイネージでは今後、聖路加健康講座等のイベントやみなさまの役に立つ情報が流れる予定です。是非ご利用ください。



皆様の声から

春は新しい環境での生活を送られている方が多くいらっしゃると思います。新しい環境で充実した日々を送られますよう、心よりお祈り申し上げます。今回は、院内でご利用いただけるサービスを2つご紹介いたします。

《ご意見》

病室で患者も利用できるWi-Fiを導入してほしい。

《回答》

対応いたしました。

当院にご入院の方(ご本人)が院内でご利用いただけるWi-Fiによるインターネット接続サービスを提供しています。パソコンやスマートデバイスなどのWi-Fi対応機器をご持参いただければ、入院中にインターネットをご利用いただけます。

申込資格

当院にご入院の方(ご本人)

申込方法

Wi-Fi接続時に表示される申込フォームに、診察券番号・

生年月日・メールアドレスをご入力いただき申し込みといたします。

利用料金

無料

・当サービスを通じて利用したコンテンツ等の料金は、申込者ご自身の負担となります。

利用時間

0:00～24:00

利用場所

病室を含む院内全域

・院内には携帯電話の利用が制限されている場所がございますので、ご注意ください。

《ご意見》

オストメイトが利用しやすいトイレを整備して欲しい。

《回答》

対応いたしました。

本館2階西側の内視鏡検査室前の多目的トイレに、オストメイト対応の環境を整備しました。

オストメイト対応トイレ入り口には「オストメイト」のマークの表示をしておりますので、ぜひご利用ください。



St. Luke's Recipe

2月23日の朝食レシピ

【エネルギー 532kcal たんぱく質 16.9g 脂質 9.8g 炭水化物 93.0g 塩分 2.7g (1人分)】



ごはん 180g 【エネルギー 302kcal たんぱく質 4.5g 脂質 0.5g 炭水化物 66.8g 塩分 0g (1人分)】

厚揚げおろしあんかけ 【エネルギー 138kcal たんぱく質 9.0g 脂質 8.5g 炭水化物 6.0g 塩分 1g (1人分)】

材料(2人分)

A だし汁	150g	B だし汁	40g
しょう油 (小さじ1/3) 2g	80g	しょう油 (小さじ2) 12g	
なめこ 20g		砂糖 (小さじ2/3) 2g	
おろし生姜 1g		料理酒 (小さじ1) 4g	
大根おろし 100g		片栗粉 (小さじ2/3) 2g	
		水 (小さじ2) 10g	
		糸みつば 6g	

作り方

- ①糸みつばはさっと茹で、3cm位に切っておく。鍋でお湯を沸かし、厚揚げを入れて、湯通しし、ざるに上げ、湯を切り、粗熱がとれたら、一口大に切る。
- ②鍋にAを入れ、切った厚揚げを煮る。
- ③Bを鍋に入れ、なめこ、おろし生姜、大根をおろし加える。煮立ったらCの水溶き片栗粉を加え、トロミが付いたら、火を止める。
- ④②の厚揚げを器に盛り付け、③のおろしあんを上からかける。上に糸みつばを飾る。

キャベツのゆかり和え 【エネルギー 15kcal たんぱく質 0.9g 脂質 0.1g 炭水化物 3.5g 塩分 0.6g (1人分)】

材料(2人分)

キャベツ 120g	①キャベツをさっと茹でて、細切りにする。
ゆかり 2.4g	②①のキャベツにゆかりを混ぜて、盛り付ける。

作り方

味噌汁・味付けのり 【エネルギー 53kcal たんぱく質 1.9g 脂質 0.6g 炭水化物 10.7g 塩分 1.1g (1人分)】

材料(2人分)

さつまいも 50g	①さつまいもを1cm角程度の角切りする。長ねぎを小口切りにする。
長ねぎ 10g	②だし汁を鍋に入れ、さつまいもを入れ、煮る。柔らかくなったら和風だしの素を入れ、火を止め、みそを加え、溶かす。長ねぎを加え、加熱し、煮たつ前に火を止める。
淡色辛みそ 16g	
だし汁 240g	
和風だしの素 0.3g	
味付けのり (2パック) 3.2g	

作り方

フルーツ 【エネルギー 24kcal たんぱく質 0.6g 脂質 0.1g 炭水化物 6.0g (1人分)】

材料(2人分)

いちご 140g	
----------	--

春の訪れ 身体のキレ復活エクササイズ

今年の冬は、大雪・大寒波・インフルエンザ大流行と、寒さと運動不足で身体がカチカチで硬くなっている人も多いと思います。

今回は、暖かく運動しやすくなる春に向けて身体のキレを取り戻すことが出来るように、

①ストレッチ、②リズミカルエクササイズを御紹介します。

①ストレッチ

ストレッチしている部位を意識しながら実施しましょう。

股関節前面



片膝立ちになり、後脚の股関節前面を伸ばすように重心を前に移動します。

ふくらはぎ



ふくらはぎを伸ばす際に、爪先の向きを真正面にするように意識しましょう。

肩甲骨・胸椎

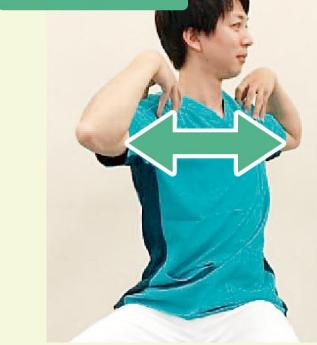


手を後ろで組み、肩甲骨を背骨に寄せ、腰を反らないように肩を下げます。

②リズミカルエクササイズ

リズム良く、しっかりと動かすように意識しましょう。

上半身回旋



手を肩に置き、胸を左右に捻りましょう。少しお腹に力を入れ、腰ではなくみぞおちより上部を動かすようにしましょう。

肘・膝タッチ



少しお腹に力を入れ、身体の中心で肘と対側の膝をタッチさせましょう。猫背にならず、脚と腕を大きく動かししましょう。

前後ステップ



脚を高く上げ、腕を振って、リズム良く前後へのステップをしましょう。余裕があれば、左右のステップも実施して下さい。

ポイント・注意点

- 各エクササイズの目安はストレッチの場合15~20秒保持を5回、運動の場合10~20回です。
- エクササイズは無理のない程度に実施し、出来る限り継続して下さい。
- 姿勢に注意し、息を止めないよう呼吸をしながら実施して下さい。
- 肩や腰、脚に痛みやしづれ、手術歴のある方は必ず主治医に相談してから実施して下さい。

ご寄付をいただきありがとうございました

皆様からいただいたご寄付は、ご芳志に沿って大切に使用させていただきます。

金額	名前
各 1,000,000	岩間 節子様、小笠原 將様、小川 裕通様、 奥村 弘子様、片山 正夫様、小林 知代様、 山口 祐司様
各 500,000	青谷 真美様、堀江 重藏様
250,000	近藤 衡平様
200,000	伊東 秀順様
各 100,000	佐藤 つね様、第4回CNS看護学会 宇都宮明美様、 中井 達夫様
各 50,000	浅香 健二様、柏木 房雄様、立石 一雄様
各 30,000	内田 厚生様、桐野 祐様、日高 敬造様、本谷 忠雄様、 ライオンズクラブ国際協会330-A地区 健康促進委員会様
各 10,000	金子 恵子様、寺田 薫様
5,000	眞鍋 裕亮様
2,000	内田 博之様
合計 612,568,000円 50音順(上記他、匿名32名の個人・法人の方々)	

(本表には、日野原ホール椅子募金、聖路加サポートーズ募金、
公衆衛生大学院 教育振興基金は含まれておりません。) 2017年11月1日～2018年2月28日

聖路加サポートーズ募金 新規ご加入いただいた方々(平成29年11月1日～平成30年2月28日)

岡部 純子様、 梅野 祐様、 松田 美江子様、 吉田 由紀様

上記の他、匿名希望1名の方にご支援いただいています。ご加入いただき、ありがとうございました。

聖路加国際病院を運営する学校法人聖路加国際大学が、引き続き広く社会に貢献するとともに
医療・看護の発展に寄与できますよう、多くの皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。

ご寄付に関するお問い合わせは 学校法人聖路加国際大学 募金室(03-5550-2368)

Service & Action Information

聖路加健康講座

会場 聖路加国際病院本館2階 トイスター記念ホール
時間 午後6:00～7:00

入場無料、予約不要、どなたでもご自由にご参加ください。

2018年

健康長寿 ~ピンピンコロリをめざそう~

4月24日(火) 人間ドック科 部長 岡田 定

よく耳にするけれど、白内障とはどんな病気? ~治療と最新トピックス~
5月29日(火) 眼科 医員 濱田 真史

お薬の上手な飲み方とお薬手帳の上手な使い方

6月26日(火) 薬剤部 マネジャー 薬剤師 川名 賢一郎

肝炎ウイルスの最近の動向

7月24日(火) 消化器内科 医幹 奥山 秀平

良い眠りとは ~睡眠を正しく理解し薬に頼らず今日から快眠~

8月21日(火) 心療内科 部長 太田 大介

塩分摂取について

9月25日(火) 栄養科 管理栄養士 松元 紀子

聖路加健康講座

聖路加国際病院の医師や看護師が講師となり、日常の健康生活のためのお話から最新の治療法まで、毎月様々なテーマで講演を行います。当院をご利用されたことがない方も、お気軽にご参加ください。

日程やテーマは変更になる可能性がございます。
最新の情報はHPにてご確認ください。

詳しくは
聖路加健康講座で検索

聖路加健康講座

検索

聖路加国際病院の理念

*This hospital is a living organism
designed to demonstrate
in convincing terms
the transmuting power of Christian love
when applied
in relief of human suffering.*

Rudolf B. Teusler(1933)

キリスト教の愛の心が
人の悩みを救うために働けば
苦しみは消えて
その人は生まれ変わったようになる
この偉大な愛の力を
だれもがすぐわかるように

計画されてできた生きた有機体がこの病院である

ルドルフ・B・トイスター(1933)

学校法人聖路加国際大学の
理念

この法人はキリスト教精神に基づき、社会の情勢に適応する医療・看護・保健福祉・公衆衛生にかかる教育を授ける私立大学および医療施設、ならびにその他の教育研究施設の設置・運営を通じ、人類へ奉仕することを目的とする。

編集
後記

卒業や入学、就職などで新生活を始めた方も多いのではないでしょうか。
春は何といっても「変わり目」です。天気も気温も生活も変わりやすい季節です。
様々な変化によって体調を崩さないようしっかりと栄養と休息をとって、春の新生活を楽しんでください。
広報誌に関するご意見・ご感想は下記までお願いいたします。(広報室)

学校法人聖路加国際大学広報室 〒104-0044 東京都中央区明石町10-1 TEL:03-6226-6366 FAX:03-6226-6376 E-mail:pr@luke.ac.jp



聖路加国際病院

〒104-8560 東京都中央区明石町9-1
TEL.03-3541-5151(代) http://hospital.luke.ac.jp/



針金・糊・加熱が不要な
製本方法で怪我の危険
に配慮しています。



輸送マイレージとCO2排出を抑え、地球温暖化に
配慮したインキです。